

〈資料紹介〉

津守氏古系図について

加 地 宏 江

摂津国住吉社の神主家津守氏は、古代以来の豪族であることに加えて、平安以降、住吉社神主職を相伝することによって、住吉社の宗教的権威と、歌神としての文化的権威とを背景に、大きな勢力を保持してきた。以後その家系は連綿として続き、明治には華族に列せられた名家である。

津守家には、系図一本が保存されており、その記載は、神代の天津彦々火瓊々杵尊に始まり、江戸末期の弘化三年（一八四六）に死去した七十七代神主国礼にまで及ぶ長大なものである。この系図は、縦三五センチメートル、横二六・五センチメートルの折本で、前添紙二丁、本文墨付八十丁からなる。前表紙・後表紙は菊花紋の文様の錦繡を用いて装訂されており、前表紙に題簽が貼付されているが、外題は記入されていない^①。初代の手搓足尼から二十一代秋主までの注記に記される天皇名（仲哀天皇から桓武天皇まで）と神主代数、および系譜を示す線は朱が用いられている。白河院政期の神主、三十九代国基以降の人物については、歴代神主はもとより、その一族に至るまで、詳細な注記を施こし^②、その内容は他の史料に見られぬものを含んでいる。それは単に津守氏一族の歴史を語るだけでなく、中・近世の政治史・文化史研究の好史料である。この系図の存在は早くから知られていたが、これまでその一部が、主として国文学研究者によって用いられただけで、その全貌が紹介されることがなかった。

ところでこのたび、私は津守千栄子氏から『津守氏古系図』の全文を紹介されることを許された。津守家の御好意に対して厚くお礼を申し上げるとともに、近年、日本における系図学・系譜学研究の必要が指摘されている⁽⁴⁾なかで、この系図がその素材の一つとなることを期待したい。

醵刻に際して、適宜読点を打ち、異体字・旧字体は現行の字体にあらためた。また、できる限り、現存の筆写形態に拠るよう努力したが、写本の性格上、全く同じ形態で組版を行うことができなかった。

なお津守氏の平安から鎌倉にかけての歩み、『津守氏古系図』の成立時期や状況、他の系図諸本との関係、およびそれらの持つ問題点については、別稿で論じた⁽⁵⁾ので、小稿では本文の紹介のみにとどめる。

注(1) この系図の名称は一定せず、住吉本とも津守本とも記される。保坂都氏の呼称である『津守氏古系図』（『津守氏の歌人群』

一九八四年、武蔵野書院）にしたがっておく。

(2) 後筆による補訂・書き入れの箇所も多い。

(3) 網野善彦「桐村家所蔵『大中臣氏略系図』について」（『茨城県史研究』四八号、一九八二年）

(4) 「王朝文化と津守氏」（『関西の文化と歴史』所収、一九八七年、松籟社）・「撰津国住吉社神主津守氏について」（『今井林太郎先生喜寿記念論文集』所収、一九八七年、同刊行会）

『津守氏古系図』

天津彦々火瓊々杵尊——火明命 <small>母木花之開耶姬</small>	
鹿 天香踰山命——天大原命——天村雲命	
天忍人命——建貫上命——天貫上命	
建簀草命——建水主命——主使鷯鷯命	
主使狹名木命——天春木命——建春木命	
主使長田命——大御田足尼——折羽足尼	
住吉社神主始 日本紀作田雲見宿祢	
仲哀天皇 手搓足尼——日本紀直等祖、宇治彦之女子鹿嶋姬也、	
奉仕穴戸豐浦宮御宇天皇御世、皇后雙御坐、熊襲國平 賜之時、又皇后筑紫櫓日宮御坐、新羅國向賜、是一時 之天皇御世、新羅國征平賜。還上坐、爾時大神詔、我 欲住処沼名棕長岡崎詔、爾時天皇詔、此地誰知問賜時、 手搓足尼答申、今問賜地者手搓足尼侍処奏申賜、爾時 皇后宣、然者汝手搓為神主、此大神者可斎祀。賜、已 是以沼名棕長岡。社定奉大神斎祀来、爾時以大神之命、 <small>崎</small>	

賜名住吉、從此爾時泊船掌内矣、取大神祭日、自此 始賜津守姓大神斎祀、 手搓足尼 侍者御前御後七門	
一、大領	津守大海社司。也
二、板屋	津守社務氏也
三、同	神官
四、津	神官
五、大宅	神官
六、同	津守大海社司氏也
七、高木	津守大海社司氏也
八、神奴	同

二 津守豐吾田	
應神天皇 奉仕輕嶋明宮御坐品太。皇御世、奉造難波大隈宮入坐 初、干時大長蛇宇内伏見此蛇矣摩將退出、因茲后負 勇猛健雄豐吾田連、自此時始賜津守連姓、大神祭祀、	天 隅

三 津守連、豐吾田男	
仁德天皇 奉仕難波高津宮天皇朝廷、氏上大神祭祀、	

四 津守連平己志

履仲天皇 允恭天皇
奉仕磐余若桜宮・遠飛鳥宮、再二時御宇、天皇御世、
氏上所賜大神祭祀、又預等所賜、津守連の一男

吳——志保——色閉——阿曾

漢——宇部
葛——弥都
加代——殿磯

五 津守連百濟

安康天皇 雄略天皇
奉仕石上穴穗宮御世、至于長谷瀬朝棕宮御宇天皇御世、
氏上所賜大神祭祀、平己志四男、

六 津守連許曆

武烈天皇
奉仕泊瀬雙木宮天皇朝廷、氏上所賜大神祭祀、

七 津守連手色

繼體天皇 安閑天皇
奉仕磐余玉穗宮御宇天皇御世、至于勾金橋宮御宇天皇
御世、氏上所賜本祭祀

八 津守連倭

宣化天皇
奉仕杵隈廬入野宮天皇朝廷、氏上大神祭祀、

九 津守連山部

欽明天皇
奉仕志貴嶋宮天皇朝廷大神祭祀、

十 津守連佐波良

用明天皇
奉仕池辺雙槻朝廷、至于棕橋朝廷氏上大神祭祀、

十一 津守連船弓

他田宮何御代哉由、相尋師宗朝臣候、不詳云々、
奉仕他田宮御宇天皇御世、氏上所賜大神祭祀、
(以下朱書)
今按、池字之誤也、以古事記者之、池田宮、敏達
天皇也、

夜平——大安——辛兒

古安——和爾

十二 津守連白鳥

推古天皇
奉仕小治田天皇朝廷始、氏上大神祭祀、津守船弓二男、

十三 小錦下津守連生羽

孝德天皇 齊明天皇
難波長柄豐崎朝廷、至于後岡本朝廷、氏上大神祭祀ハ

千羽一男、

十四「從六位上津守宿祢広麿」

元明天皇宮之由師宗朝臣申之、同元明
文武天皇 有此名、兼伊勢大掾、
奉仕藤原宮、氏上大神祭祀、

大海——丹波——爾与多宇

伊豆丸——右次——君丸——和丸——淨庭
又名駿川

貞成

十五「正八位下津守宿祢池吉」

元正天皇
平安宮天皇御世遣唐神主、給借五位、還来大神祭祀、

池雄——夏岳——春野

比奈都丸——夏雄——雄水——興合

十六「從八位津守男足」

師宗云、或聖武、或文武、説々在之云々、
朝廷女帝ハ称徳天皇也、
奉仕奈良朝廷女帝御世、渤海神主、不還来、
(以下朱書)

十七「從七位上津守浄山」

桓武天皇
平安柏原天皇御世少領、再大神祭祀、男足一男、

十八「從六位津守国麿」

柏原天皇御世、讃岐国大目兼遣唐神主、再当社神主、
小初位上八国一男、

十九「津守宿祢島麿」

奉仕藤原朝廷、大神祭祀、神主伊勢大掾広麿二男、

二十「從五位下津守宿祢真常」

依、勅替名、本名真前、
續日本紀作真前、
奉仕今朝延、大神祭祀、島
麿一男、

二十一「從六位上津守宿祢秋主」

桓武天皇
奉仕長岡朝廷、大神祭祀真常一男、

二十二「從七位上津守高継」

奉仕平安、大神祭祀秋主三男、

二十三「津守宿祢浄永」

奉仕平安、大神祭祀秋主四男、

二十四「從六位上全継」

承和年中大神神主、嘉祥二年少領職、高継二男、

二十五 從六位善雄

貞觀年中大神神主雄繼男、

二十六 正六位上繼曆

自元慶七年迄于仁和年中大社神主、氏繼男、

二十七 正六位下夏嶺

昌泰二年神主、善雄一男

二十八 從六位下綱雄

延喜六年大神祭祀 二ヶ年死去、

二十九 從六位下助雄

社務一任後又七年還任、

三十 雄助

延喜十七年神主初任、貞觀九年前神主宮道者有之、

三十一 外從五位下利常 異本利忠

天曆三年十二月十五日補神主、同九年十一月廿九日重
任 国解
上宣

天曆六年五月日叙從五位下、去天慶二年依東西兵乱、
被授諸神一階極位、神社司一階間被授之、

三十二 扶平

永延三年神主由所見在之、

三十三 公則 異本公範

神祇官解上宣 異二年
長德三年十二月補神主 社務、異本正曆元年補神主、
六年

長德二年十二月廿五日重任 社務六年云云、自長德

三年六年歟、当長保四年歟、長保三年良利補神

主云云、不審猶可尋決也、又社務九年歟、正曆

元年補之、長德三年重任歟、

三十四 良利 異本良則

長保三年二月廿七日補神主 氏人奉
上宣

三十五 忠滿

寬弘四年 丁補之、
未補之、

三十六 賴信

長和二年補之、

保忠

異元年^{甲子}十二月廿日補
 万寿二年十二月廿二日上宣
 國解、奉勅造進、同九年七月十七日長任
 社解、社務三十二年

狛

津守宿祢

康平元年

狛
 惣官所持本天喜六年正月廿二日補
 津守宿祢

信国

一男僧

惣官所持本天喜六年正月

廿二日補之國解上宣

康平元年正月廿二日補神

主、

同三年三月四日卒、

社務三年

貞助——貞高

忠信

承曆四年十二月朔日神祇官符、神主国基服解之間、以氏人永基為
 代官可勤行神事云々、永基誰人哉、
 寛治二年九月十一日神祇官符云、
 神主国基宿祢并權神主広基等、依傍人之服、令満日數之間、暫不
 從神事、仍以件定助為代官、可被勤行來十三日相撲会云々、
 又康和四年八月二日神祇官云、広基服之間、以吉連為代官可勤仕
 神事云々、

三千五代ノ所見

注連

忠満

基任

入道

寛弘四年月日補神主
 出家 法名信行

承安三年長門一宮預所ニ津守盛成補之、平相国下文在之、此名字等不見系図
 不審云々、但永万二年二月十四日御封米之事、安芸国司ニ遣状ニ神主盛成云
 々、永万者斯主御社務之御改名歟、

或本言、為信国実子由、見康平杜解

基辰
長久三年五月廿九日
叙外從五位下、依盲
目出家、号我孫入道

康平三年三月八日可被補神主由、氏人上挙状、被仰下云、五位不可補、仍以国基可被補云々、同六月廿九日重上挙状、何人子孫哉、可勘見之、
津守得重長久三年正月任神祇少史、寛德三年十一月転少祐、承暦五年卒、

三千九

承暦有基任对馬守在国間下向之
国基

母神主頼信女、万寿

三年七月七日誕生、

康平三年十二月十五

日補神主、年三十五、

于時基辰現存、同七

年十一月廿五日長補、

三十九、延久元年九

月七日叙從五位下、

陽明門院臨時被申、

応徳三年十一月十日

補高砂御厨檢校、応

徳元年建立莊嚴浄土

寺、永長元

寺、嘉保三年三月七

日供養、講師横川慶

增命

塔浄土寺等別当

盛弘

四十

広基

延久四年十一月

廿五日補權神主、

年二十、天徳二

年津守有輔補此

職以來中絶至延

久四年、百十六

年歟、承暦四年

閏十二月廿日叙

從五位下、内給

年廿八、康和五

四十一

俊基

康和五年月日補

權神主、三十六、

長治二年八月廿

日叙從五位下、

三十八、天永三

年正月廿四日補

神主、四十五、

永久二年九月廿

二日長補、四十

七、上卿權中納

言藤宗忠、保延

忠基

永久三年七月廿

八日補權主、十

六、同五年六月

廿二日叙外從五

位下、十八、天

治二年十一月廿

二日於父俊基前

自害、但有子細、

年廿七也、

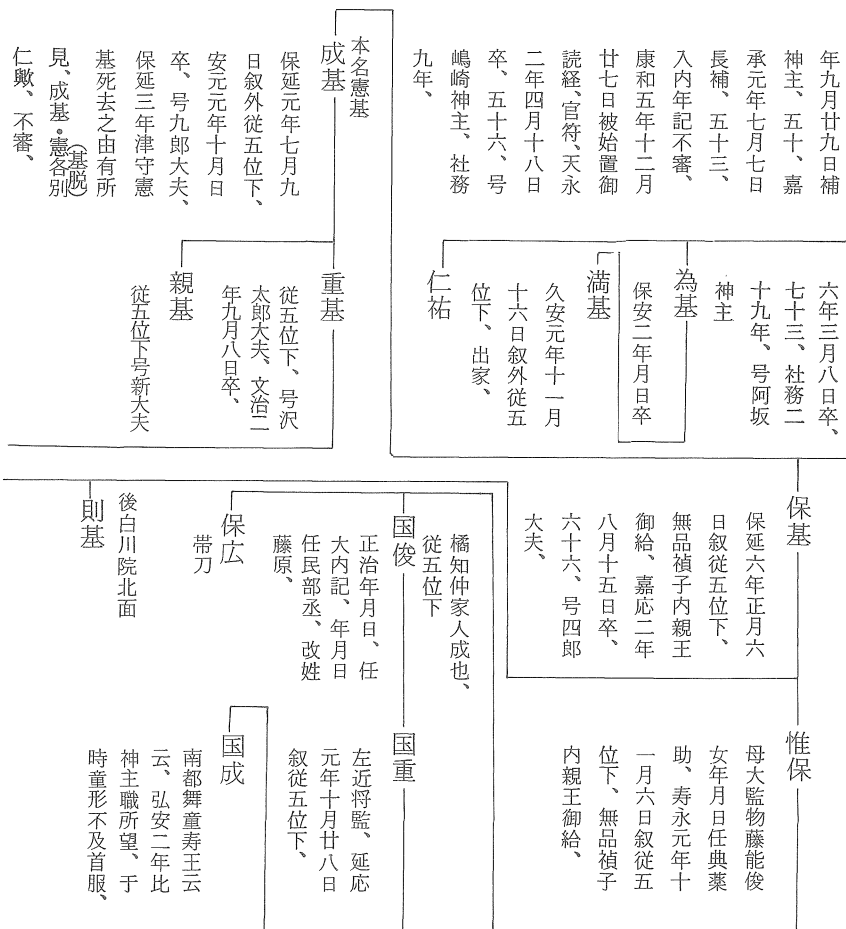
盛基

外從五位下、

父死去時十歲

云云、

朝僧都、統師西
塔宗心阿闍梨、
七僧皆有職、承
德二年戊寅二月
廿三日神宮寺內
三昧堂供養、誦
師林算供奉、延
久二年八月十五
日、神宮寺鐘懸
之、康和四年七
月七日卒、年七
十七、社務四十
三年、箏上手、
小倉供奉院禪弟
子、号藤井戸神
主、歌仙、後拾
遺集始天入之、
三首、春上冬雜
三、金葉三首、
春恋上雜上、詞
花二首、別新古
今一首、冬、統
古今一首、哀、



一統拾遺二首、恋三、統後拾遺一首、神祇、
 永長元年天下觸穢事、大外記清原良季勸
 之、三月十四日諸陣被立觸穢札、自去九
 日来月七日、件穢去七日住吉神主国基、
 於彼社辺建立伽藍供養、爰延尉官道式賢
 弘難人之間、橋壞溺水死者五十余人、笛
 師左近將曹清任、自彼所參本陣着到、仍
 有穢沙汰、又八月七日郁芳門院崩、天下
 觸穢、

改為基
 兼基
 從五位下
 家基
 時基

越中權守
 国光
 仁安三年十一月廿日叙外從五位下、承安
 三年正月五日入内、千載集入之一首、恋
 一、
 俊意
 任證入滅時、津守寺別當望之、然而任讓
 證盛補之、
 不孝
 家基
 從五位下
 明法得業生
 能基
 離氏
 基之

有基
 一男
 宗基
 從五位下
 光基
 從五位下
 周防
 女子
 箒上手、夕霧師也
 二男
 (ママ)
 承保四月正月廿
 三日叙外從五位
 下、承曆元年閏
 十二月五日任対
 馬守、法勝寺御
 弘木功、于時有
 元、嘉承二年正
 方磐上手、号白幕、
 師長、備後守季通等師、

月五日叙從五位

下、天仁三年正

月五日叙從五位

上治国賞、永久

九年九月四日任

大隅守、長承二

年正月晦日任日

向守、方磬初師

異朝人魏、歌弟

子、箏上手、小

倉供奉院禪弟子、

二年イ
保延元年月日卒、

歌仙、千載集二

入之、一首、旅、

長盛

承久元年十二月廿日神宮寺西塔供養、此御塔供養、次置三綱、上座勝寛・權上座定西・寺主良範・權寺主範驗・都維那円印・權都維那未補、補神主事、官長者伊綱書出宣旨、治承三年十一月廿三日神主長盛・權神主国長云云、如明清記者治承二年十一月十八日云云、尤不審、猶可尋決云云、

長盛

元暦元年七月十六日始地藏講、依吉日云云、

長盛

建保七年閏二月十四日四品ノ拜賀申、日向守正祢宜浦重申之、束、權宮経国・国茂、衣、国繼、後騎、国業・国平等供奉、侍行房・良頼、右勾当、行忠、已上五位、成綱・氏人助茂、已上布衣、建保五年十二月十三日於一神殿御前、權宮経国立願、荒序舞、狛近真兵衛尉、笛、惣官長盛、大鞍、政氏、于時武束打之、

宣基

承暦四年正月廿

三日叙從五位下、

応徳二年二月十

五日任安房守、

別功、種々超上臈

四十二
盛宣

天養元年長補
上卿權大納言源惟定

四十三
国盛

母六条判官為義

女、

「天治」年当ルシ

保延六年三月廿

一日補權神主、

四十四
長盛

母天王寺供僧

行還女、建暦二

九十七入滅、五

十八歳往生、久

安四年六月五日

四十五
国長

母主典ノ代肥前

守大江盛親女、

長寛元年十二月

廿八日叙從五位

下、年三歳、八

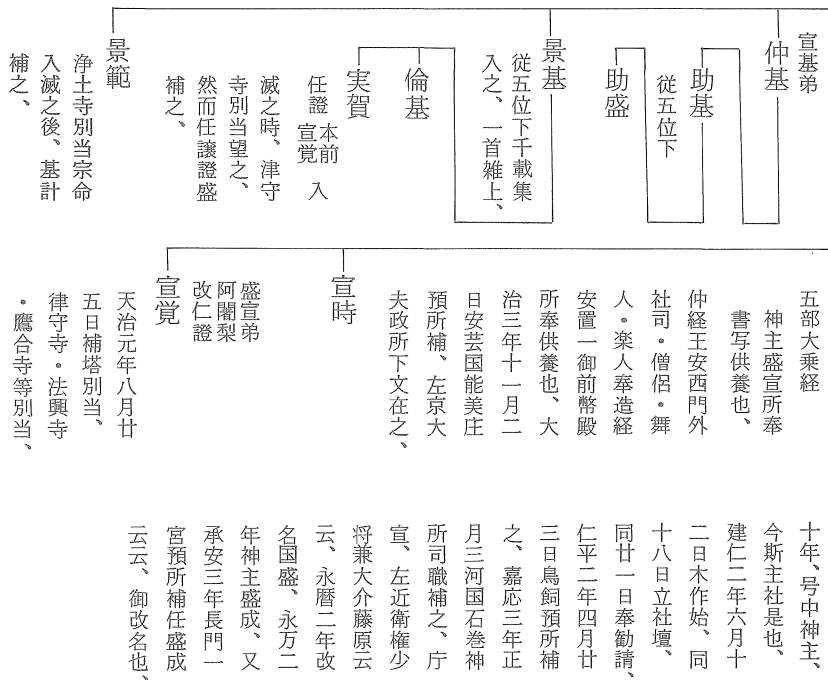
十一人云々、康和五年正月二日叙從五位上、治国賞、同六年正月廿八日任河内守、長治二年辞退、年月日出家住寂、長承二年月日卒、天承二年六月十三日藤井戸来迎堂供養願文署阿弥安道云々、応徳二年任安房守事、大膳職舍屋或造立或修造并百鉢觀音等身像功、超上臈十八、

六年三月廿一日補神主、五十七、天養元年十一月十一日長補六十一、保元三年十一月十三日辞退神主、出家蓮寂、同廿三日戌時卒、年七十五、社務十八年、号入道神主、保延六年三月廿五日、請官符大使官掌実久、保元三年戊寅八月十五日神宮寺經藏立之、久安四年戊辰四月十八日始行大乘会、大般若經一部
神主俊基所奉書写供養、

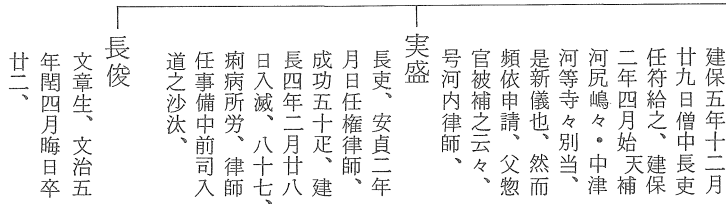
三十一、永治元年四月七日叙外從五位下、年月日入内、保元三年十一月十三日、補神主五十、即請官符同十九日下向參宮、安元元年正月廿三日叙從五位上、同十七日請官符、大使管掌為兼、保元四年三月十四日、一切經会被始行之、於一神殿御前行之、自応保三年神興出御、永曆元年十月五日一切經奉渡之、治承二年十一月十三日卒七十、社務二

叙從五位下、年十、前大宮司永治元年未叙、保元三年十一月十三日補權神主年廿、同十七日請官符、二官掌宗職、同十九日下向參宮治承二年十一月廿八日補神主四十、同三年二月十九日請官符、大使二官掌因成、同廿三天下向、同年四月十五日參宮、建保四年五月廿五日卒、年五十六、鷹飼也、本名兼盛、

条院御給、号太郎大夫、治承二年十一月十八日補權神主年十八、同三年二月十九日請官符、大使二官掌因成、同廿三天下向、同年四月十五日參宮、建保四年五月廿五日卒、年五十六、鷹飼也、本名兼盛、



六年四月廿三日
叙從四位下年八
十、去壽永二年
御祈賞、承久二
年四月六日申時
出家、戌時閉眼、
八十二、臨終正
念往生也、異香
董シ音楽聞云云、
社務四十二年笛
上手、戸部清近
弟子、四典已下
不殘一事相伝之、
清好近・政氏・
政繼・政季等師
也、方磬白幕弟
子、從三位行能
卿師、承久元年
十二月廿日神宮
寺西塔供養、年
月日僧中着例米
料、阿閉庄四六
町宛置云云、



經国

建保七年閏二月五日一級從五位上 拜賀申、先惣官申次 國茂、次參社頭申次 正祿宜明景、嘉祿二年八月十九日拜賀、正五位下、一神殿祢宜明守申、二神殿權祢宜明景、三神殿祝遠任、四神殿權祢有真、文治五年十二月丙午 廿一日首服、五歲、加冠祖父惣官、承久三年三月十七日堀内御堂供養、為神主追善也、五部大乘經自廿五歲書寫、四十四歲、安貞二年於淨土寺供養、自四十四年始天 全泥大般若經每月七ヶ日參籠、社頭月別二卷宛五歲書寫之、為壽命也、而十月他界、遺言云、此大願不果遂所勞大事畢、來世二モ 志可果云々、料紙（泥脱力） 金已下具足、社内如元安置之、向後縱雖非惣官身、可書繼卜申天、來時必可書者我身、可生今生故也云々、氏人着例未斷、久米庄年貢廿五石被置之、然而繼絕畢、貞応元年十二月廿七日神宮寺仏名始行之、

四十六

經国

母前中宮大夫進源高良女、文治三年九月廿八日叙從五位下、年三歲、八条院御給、建保三年正月十三日任撰津守三十一、同年八月廿日遂神拜、同四年六月三日補權神主、三十二、同五年六月八日請官符、官掌景職、同九日下向參宮、建保四年八月廿日罷守、御宮造宮依重服也、申任名国司高階業基、同六月廿六日任之、同六年四月廿三日叙從五位上、三十四、去寿永三年御祈賞、父国長讓、承久二年四月十一日補神主、三十六、同十月八日請官符、大使史生景直、同十一日下向、參宮、嘉祿二年八月十四日叙正五位下、御祈賞、安貞二年十月廿五日卒、四十四、社務八年、建保二年二月十四日勸喜寿院供養、師子大鼓打三十、笛政氏吹之、承久三年二月四日造進若松御所、御熊野詣入御、後鳥羽院、安貞二年二月廿日於莊嚴淨土寺五部大乘經供養、為北白河院御願遂行云々、院司、笛上手、祖父長盛弟子、授一曲政氏、歌仙、新勅撰集始入之、一首、続後撰一首、続拾遺二首、新後拾遺一、続千載集二首、

国平

承久二年四月十一日補權神主、同七月十三日參宮、着坐、先於北殿寢殿酒肴其後參住江殿、自住江殿參社、奉幣後着坐上客殿、自同十五日出仕云云、官符者十月八日惣官同時請取之、十一日惣官參宮時、同參宮、官符読上之、

改名事

經宣、次國親、次國平

四十七

国平

母刑部大輔藤範良女、
本名經宣、建保七年四月八日任大學助、年十二、承久二年四月十一日補權神主、十三、同十月八日請官符、官掌景職、十一日下向參宮、承久三年十一月廿九日叙外從五位下、年十四、貞應元年十二月廿一日叙從五位下、安貞二年十月十七日補神主、年二十一、同三年十一月十六日請官符、官、大使

四十八 四男

国助

母大友大炊助藤原親秀女、建長五年十二月晦日任修理亮、年十二、同六年四月七日叙從五位下修理亮如元、弘長三年九月十二日叙從五位上、年二十三、文永六年八月廿九日補權神主、年二十八、同九月三日請官符、官長者有家、使二官掌國里、同七天下向、十三日神事以前參宮、即供奉、弘安八年四月三日補神主、

四十九 三男

国冬

当社二僧東僧坊、母法印定忠女、弘安八年四月三日、補權神主、年三十六、正應元年九月九日叙從五位下、十九、同日任左近將監、永仁二年八月十四日叙從五位上、年廿五、同年十一月四日叙正五位下、永仁七年正月晦日補神主、三十、正安二年四月廿二日請官符、官長者伊綱、大使官掌國有、同廿五日參宮、正安二年

五十

国道

母同國冬、実國助六男、永仁七年正月晦日補權神主、年二十三、正安二年四月廿二日請官符、官長者伊綱、大使、左史生泰広、同廿五日參宮、永仁七年二月十五日叙從五位下、正安二年二月廿二日叙從五位上、正和三年十一月十九日叙正五位下、造替金物功、永仁二年九月十三日禪林寺殿住江殿御幸時、可補藏人由、帥卿

左史生同廿五日下午向參宮、文曆二年六月十七日叙從五位上、年二十八、上御厨二間功、建長二年五月廿日任撰津守四十三、同年九月八日遂神拜、仁治二年四月廿三日叙正五位下、弘長三年九月十二日叙從四位下、五十六、文永八年四月九日叙從四位上六十四、弘安八年三月廿七日卒、七十八、社務五十八年、正元年十二月四日神宮寺西塔供養、此西塔者天喜元年神宮寺回祿、国基奉助造宮時、有別願立云云、寛喜二年正月西林院、故惣宮建立御堂田寄進、
院主 円光院分 六段
供僧 三口 各六段

年四十四、同九年四月廿八日請官符、官長者秀氏、使右官掌國員五月七日下午、宿渡部、八日參宮、正應元年九月二日叙正五位下、御祈勞、四十七、正應三年六月廿九日任撰津守宣下、四十八、同九月晦日遂神拜、永仁二年八月十四日叙從四位下、年五十三、同三年正月廿八日叙從四位上、御厨二間造進功、同四年二月八日叙正四位下、宝藏造進功、五十五、永仁七年正月晦日辭退神主、同三月十九日卒、年五十八、社務十五年、文永三年四月廿七日蓮花王院供養、師子大鼓打之、年二十五、笛政多吹之、正應三年十二

七月四日叙從四位下、三十一、御祈賞、宣下職事頭左中將藤俊雅、上卿土御門大納言源通重、正和元年五月廿八日任撰津守、四十三、同九月廿八日遂神拜、同三年四月十三日叙從四位上、四十五、上御厨二間功、正和三年七月十一日安部春房任撰津守、言上子細之处、同十八日還任、宣下職事治部大輔藤光業、正安二年十二月五日南都興福寺供養、師子大鼓打之、笛戸部政躬吹、当日勸賞、任左近將監、正安四年六月十八日、仙洞百首可詠進由被下院宣、坊城前中納言俊定奉行、正安元年七月七日可參上北面由被仰下、

經任被召仰之、即天王寺還御供奉、列上北面、衣冠、元應二年六月廿五日補神主、年四十四、元亨元年七月十六日請官符、官長者千宣、大使左史生紀宗兼、同十八日下午、十九日參宮、自住江殿參宮、略儀、元亨二年二月十一日任撰津守、四十六、同四月廿七日神拜、略儀、元亨三年二月九日叙從四位下、宣下年四十七、職事民部大輔平忠望、新後撰集始一首入之、統千載集六首、統後拾遺五首、正中二年九月十二日宣下、叙從四位上
童名春今
国道
永仁二年正月廿七日首

一口 実尋
一口 定聖
一口 淨妙
八講田 八段
預分二段、已上、
三町四段、
年月日仰田所僧信件、
以田所得分窪田住福寺
造営、本堂破壊間、新
造之、未遂供養他界了、
承元二年戊辰十月十九
日已時誕生、沐浴已下
勘文、加茂在親朝臣釈
之、建保四年十二月十
日首服、九歳、加冠惣
官長盛理髮、
童名 一王
同五年正月朔日始出仕
之、十歳、理髮、
陪膳 国茂
侍 惟村・行房・良
依・行盛・康房
建保七年六月四日拝賀、

月廿七日可参上北面由
被仰下之、
可候上北面給者、依御
気色執達如件、
中務権少輔祐春
十二月廿六日
撰津守殿
永仁四年三月神宮寺鐘
鑄改懸之、根本鐘破、
同鐘改、同五年三月御
堂建立、本尊阿弥陀、
以西大寺長老慈道上人
已下僧七ヶ日仏事廿七
日曼^{マニ}昌^{シヨウ}方^{ハフ}多^タ羅^ラ供、大阿
闍梨本照上人、故惣官
十三^{（行）}三年追善也、正応
元年九月十三日、泰王
装束、四具調進、笛、
歌仙、続拾遺集四首入、
撰者大納言為氏、於和
歌所衆撰歌事一向沙汰
之、新後撰集七首入、
撰者大納言為世、玉葉

前左衛門督為雄卿状云、
上北面御参事、奉行被
仰以隆朝臣候了、且可
被存知之状如件、
七月七日 判
住吉神主館
同九月九日以隆朝臣状
給之、
可令候上北面給也、内
々所被仰下候也、恐々
謹言、
九月八日 以隆
住吉大夫将監殿
永仁七年二月、自部内
至諸神領、鷹狩永代一
向停止之、自年於社頭
毎月大般若經五卷摺写
供養、徳治二年御堂建
立、本尊、四月十九日
以西大寺長老慈道上
人已下僧供養、童舞、
童楽、徳注三年九月
十四日於今主社法会
始行舞楽、法花經摺写
供養、自四年以三月九

服十八、加冠惣官、理
髪国頼、脂燭棟国・国
房、陪膳国房、侍五品
景方奉行、五品為村、
椅長綱・行世・惟世・
同三月八日一切経会、
初出仕之、

国道

嘉曆三年八月廿五日未
時卒、年五十二、社務
九年、閉眼時詠云、ぬ
しもなき命のうへに名
をつけて人にそいはめ
たれおはりぬと、国勝
随被申書也、去十二日
社頭御八講出仕、心神
違例間、退出云云、自
十日比聊有所劳気、雖
（療力）
□治増氣、臨終正念也、

住太子、照恵弟子
源意

元亨二年十一月長史、

大學助、參社申次、正
祝明景、次參住吉殿、
惣官長盛參籠、申次国
茂、布衣、国業、侍、
惟村・宗基・行綱供奉、
文曆二年六月廿九日一
級、從五位上、供奉人
国氏、衣冠、侍、家盛
・資康、笛、和琴、歌
仙、統後撰集始一首入
之、統古今一首、統拾
遺一首、新後撰三首、
統千載集三首、統後拾
遺一首、

集一首、撰者為兼卿、
詠歌不出之、統千載集
二十首、撰者為世卿、
統後拾遺十首入、撰者
為家卿、惣官国冬有夢
想事之上、種々奇瑞有
之、仍神宮寺戊亥角之
社壇、正安二年十月二
日上棟、同十二月廿九
日奉勸請、号今主社、
童名龜鶴、建長六年二
月廿日首服、年十三、
加冠惣官、理髮国氏、
脂燭政氏、稚樂、加冠、
永世權祢宜、侍家久中
原行直、為房、改景房、

国冬

弘安九年卯月廿八日請官符、使右官掌国、五月七日
下向、八日參宮、国冬、文永七年庚午六月六日寅時誕
生、童名幸今、国冬、弘安九年卯月九日首服、十七、
加冠惣官、理髮国頼、脂燭棟国・国房、陪膳国房、侍、
景房・政方、奉行、為村・行仲・長綱・行世

日為式日、新後撰集四
首入之、撰者大納言為
世卿、為和歌所衆撰集
一向沙汰云云、玉葉集
撰者為兼卿一首入之、
統千載集十首、撰者為
世卿、統後拾遺七首、
撰者為定、文保元年八
月廿四日、藤原貞祐、
任撰津守、関東任者、
元応元年八月五日還任
撰津守、同二年六月十
七日於京都卒、五十一、社務二十二年、為勅撰沙汰在
京、自十六日和歌所違例、十七日夕卒、京宿所大炊御
門東洞院、文保二年十二月廿八日、仙洞御百首可詠進
之由、被仰下云々、百首和歌題遺之可詠進由、被仰下
之狀如件、十二月廿八日、住吉神主館、蒙仰、明年正月
可有披講、同可被存知也、吉田前中納言定房奉行也、
同三年正月五日到來也、御百首元応元年詠進之、

(欄外注記)

宣下職事

右少弁藤長光

已下所職相繼之、元
享二年十一月廿八日
被補塔別当、御撰錄
一条殿、嘉曆二年七
月廿日任權律師、一
切經会功、

童名阿古今

国夏

徳治三年正月廿八日首服、加冠惣官、理髮国雄、脂燭棟国・国景、陪膳国景、侍五品景方、奉行、清範。為中・惟躬・良綱・久村 長村名代

五十一

国夏

母帥房有盛女、延慶元年十二月八日、叙従五位下、同九日任左近将監、宣下、職事頭右近衛督藤為藤、正和三年十一月十九日叙従五位上、元応二年六月廿五日補權神主、年三十二、為国道、元亨三年七月十六日請官符、官長者千宣、大使官掌国俊、十八日下向、十九日参宮、正中二年九月十二日宣下、叙正五位下、嘉暦三年九月日、補神主、年四十、同四年九月廿二日請取、官符、官長者冬直、大使右史生紀盛宣、同廿五日下午宿渡部、

国実

母関東下郷中務丞元政女、嘉暦三年月日誕生、同九月日補權神主、一歳也、童名尊今、同四年九月廿二日請官符、棟国為代官請取、官長者冬直、大使右官掌中原高繼、從五下、從五上、左近将監、文和元年十廿五卒、歳廿五、風雅集一首入之、

五十二

国量

母同、文和元補權神主、十五歳、從五位下、同二年五月補神主、從四位下、撰津

源助

母兵庫助忠主女、長吏、權律師

源実

母同、童名今仲、長吏、律師

女

母同

量貴

母同、童名王今、從五位下、因

幡守

毘沙今

量早

早世

女

女

国久

母法印泰尊女、從五下、大蔵少輔、從五上中務權大輔宣下、補權神主、応永元十一補之、從四

報今

十九卒

落胤

廿六日參宮、同十二月

可候上北面之由被仰下候也、仍執達如件、

十二月三日

資名

住吉大夫將監殿

上北面奉行未定間、日野前中納言被書下之、持明院殿院宣也、元德二年正月廿九日、叙從四位下、宣下、藏人左衛門佐宗兼、上卿權中納言、元德二年三月廿七日延曆寺講堂供養師子大鼓打之、年四十二、笛、戶部政躬、舞、藤井行繼、行幸、成師子後、即召御前政躬給一階、從五位上也、上卿內大臣公賢、被召仰之、正四位下、文和二十五卒、歲六十五、文和元辰閏二月十四日叙從三位、先朝建武二年任御祈例、為勲功賞、延元二年丑七月五日ニ賜牛車、光明院御宇也、歌仙統千載初テ四首、続後拾遺三首、

守、民部大輔、從四上、正

四下、明德年中任左京大夫、

応永五五二、叙從三位、応

永九正廿七、年六十五歲、童

名加護今、新千載集三首始

入之、新後拾遺七首入之、

卓然和尚

慈恩寺開山、文明元年八月、

一休和尚避乱寓住吉、以卓

然和尚甘棠遺蔭可慕也、

女

西林院尼衆

国貴

文和二五補權神主、從五下

左近將監、從五上、正五下、

兵庫頭、從四位下、応永元

十辞退權神主職、応永四出

家、法名宗統、応永七七

卒、辞世時作頌、歲六十一、

童名金今、新後拾遺三首入

之、

下、師子大鼓、応永三、山門、

講堂供養打之、応永四十卒、

四十歲、童名拳今、新後拾遺三

首始入之、

国廉

母同、從五下、左近將監、伊予權守、從五上、

彈正少弼、補權神主、応永四十補之、同五年

九六卒、歲三十八、童名文今、新後拾遺、誦

人不知、一首入之、

音今

早世

宗覆

慈恩寺、坊主、侍者、応永二十卒、三十一

歲、

五十三

如国

左馬助、從五下、民部少輔、從五上、応永六

十二補權神主、応永九二補神主、正五下、從

四下、応永十四六十五卒、歲三十九、童名長

今、

叙從五位下、永仁元年

十月一日任、河内守、

国益

金物功、年廿九、同二

元応二年四月十六日叙從五位下

年八月十四日叙從五位

上、段米御免替功、正

和五年十月廿六日於西

林院出家、法名寂信、

年五十二、統千載始一

首入之、名寂信法師、

国顯

童名若今、弘安六年十一月十九日元服、年十九、加冠惣官、理髮宣平、脂燭国与・行氏、陪膳行氏、同七年正月朔日初出仕、

二男

經嚴

母侍從隆祐朝臣女、宰相局、東寺、年月日、任權律師、永仁元年月日任權少僧都、同四年八月補塔別當、嘉元元年十月依重病辞退塔別當、同十一月十三日入滅、年四十四、号兵部卿僧都、

經嚴

童名方今、正応三年八月廿九日於東寺嚴盛法印坊出家、二十一

照恵

母同国冬、住太子、号民部卿僧都、永仁二年十月十七日任權律師、同四年八月七日補浄土寺別當、社家補之、同五年

月日補長吏、嘉元元年十月日補塔別當、延慶四年正月十六日任權少僧都、元亨二年十一月十八日午時入滅、年四十九、自去月上旬腫物所勞也、

照憲

童名同今、正応元年十月廿三日於盛寿院法印秀惠坊出家、同廿日南都受戒、阿弥陀寺別當、西林院院主、琵琶頼盛弟子、三曲已下不殘一事相伝之、

国兼

母同国冬、童名又今、正応三年九月廿六日補玄輝門院藏人、年十六、同年十二月廿二日初參、同四年六月六日叙從五位下、玄輝門院臨時被申、年十七、永仁二年九月九日叙從五位上、年二十、正和二年四月十日任近江守、荒垣修造功、文保二年九月廿八日、於西大寺出家、受八齋戒、法名淨寂、

国兼

弘安九年卯月九日元服、年十二、加冠惣官、理髮国頼、脂燭棟国・国房、権官国冬元服同時元服、同五月十九日御田代神事初出仕、和琴、笙政秋弟子、入調荒序等脩秋相伝也、

信助

母佐渡守源 女、山臥法印信憲弟子、

道助 刑部卿

量明 從五位下、出家、

号治部卿、山臥道離、号明道、

通世、随阿、

経助

母同信助、律僧西大寺、号性本房、延慶三年正月日入滅、

国政

母棟国女、正和元年九月廿一日叙從五位下、宣下、童名辰今、

信兼

律僧、元応二正入滅、

清兼

僧、住高野、

基冬

嘉曆二年十一月廿日叙從五位下、一切経会功、出家寂妙、

宣兼

早世、不住、

女 箏

母同国顯、新後撰集始一首入之、統千載集三首、統後拾遺一首、後日野大納言室、藤中納言俊光殿上人時、五位職事以前暫同宿、

女

佐々木三郎左衛門尉師綱室

女

母同国冬、大納言為世室

女

母同信助、法華寺律尼

女

母同信助、法華寺律尼

女

母同国冬、法華寺律尼、号忍寂房

一男不孝

国言

嘉祿三年二月廿九日任大学權助、十一、延応元年四月十三日叙外從五位下、仁治二年正月五日叙從五位下、弘安三年十一月晦日畢、年五十三、

国言

安貞二年戊子六月十日午時誕生、(之)国興申狀云、命王丸云云、国言童名鶴若、嘉祿三年正月廿一日元服、年十一歲、加冠惣官、理髮權官国範、脂燭国茂。

国興

舞人

母左近將監清原助氏女、弘安五年六月廿五日任縫殿助、同九年五月八日舍弟長寿。万寿相共遁失、神主国助殺害企、露頭故也、依社家訴被召出六波羅之处、逐電之間、

国繼・陪膳国氏、侍惟村・宗基・宗村・兼行・康房・家盛・資行 二男
馬籠為綱
可擲進由被下知畿内地頭御家人、
其後関東下向、嘉元三年月日畢

二男
經覚

母小笠原太郎源長經女、年月日補長吏、建治二年月日補塔別当、弘安九年十一月五日任權律師、永仁二年九月二日任權少僧都、同五年閏十月廿日入滅、年六十五、

經覚事

重頼、阿弥陀寺別当、西林寺院主、建長三年十一月日於石山座主法印坊出家、童名松坊、住太子、兵部卿僧都、

三男不孝

国孝

母同経覚、建長二年八月廿七日叙從五位下、年十六、正応五年正月十日畢、五十八、号松本大夫、童名亀夜叉、

国種

正応六年六月廿四日任修理亮、延慶元年十二月日、出家仙寂、

道種

嘉暦三年九月十四日任主殿助、一切経会舎屋功、

国康

正応六年七月七日任大学助、正安四年五月十七日卒、

女

法華寺律尼

宣平

母同国助、弘長三年九月十二日任左近衛尉、年十九、文永二年正月

国直

嘉元三年閏十二月廿四日任右京亮、元亨三年正月五日叙外從五位下、

国勝

元亨二年月日補院藏人、正中三年二月廿五日叙從五位下宣

五日叙従五位下、二十一、弘安三年七月十一日叙従五位上、当社聖

観音供功、同八月月日、補主殿所長官、続千載集一首入之、正和五年六月四日卒、七十二歳、神楽

宣平

童名薬師、弘長三年十月廿八日元服年十九、加冠惣官、理髮匠作国助、脂燭国孝・国頼、陪膳大江宗久、

棟国

母中務丞大江家村女、家女房、文永三年十月廿六日任主殿権助、年十四、同五年二月晦日任式部少丞、十六、同六年正月五日叙従五位下、十七、同三月廿七日任相模権守、弘安十年十一月十一日叙従五位上、年三十五、正応三年九月二日任土佐守、三十八、永仁二年八月十七日叙正五位下、年四十二、大外記師宗本、八月廿日叙之、正安二年

同四年正月五日叙従五位下、嘉暦三年八月廿五日出家、妙寂、

国藤

母僧寂因女、家女房、童名王今、正応五年十一月八日補新陽明門院判官代、二十二、同六年七月七日任伊豆守、同廿三日叙従五位下、永仁二年十一月四日叙従五位上、二十四、続千載集一首入之、続後拾遺一首入之、神祇、
国藤
弘安十一年十月廿八日首服、年十八、加冠惣官、理髮権官国冬、同

下、一切経会功、備前守、

勝基

内蔵助、従五下、筑前権守、

宣勝

主計助、早世、

清国

正安二年正月朔日始出仕、十歳、

永仁三年五月十六日任式部少丞、年五歳、同年六月廿三日叙従五位下、正和三年十一月三日卒、廿四、

宗喜

嘉暦四正五入内、同五四還任、修理亮、

師国

正中二年十二月廿一日任修理亮、

閏七月十四日叙從四位下、四十八、御祈功、笙政秋弟子、歌、新後撰集始一首入之、神祇、統千載集一首、統後拾遺一首、撰者為定卿、正和五年八月四日補主殿所長官、嘉曆二年十一月十八日補座摩社神主、

棟国

童名龜若、建長五年癸丑五月十八日辰時誕生、文永五年正月八日首服、十六、但節分以前十五歲也、加冠惣官、理髮權官、脂燭、龜夜叉大夫国孝、兵衛大夫宣平、陪膳師良、侍師良、五位陪膳、手長家久、樂所氏直。惟氏、奉行為清、馬籠家人氏直、惟氏請取也、文永十年十月晦日相嘗御祭、当色饗始出仕、年二十、

女

母同經覺、從三位資定室、

女

母家女房督局、出家、

十一月九日相嘗御祭当色饗經始出仕之、脂燭国房・国兼、陪膳景方奉行、侍康季・長綱・長村、馬籠長綱・長村、康季請取之、

一切經会功、嘉曆三十二四叙外從五下、同功、

藤基

嘉曆四年五月四日任右京亮、元徳三年二月廿五日叙從五位下、宣下職事左少弁宗兼、

良然

母同国藤、永仁三年正月晦日任權律師、正中二年八月日補二僧、西僧坊、同年十二月佐東僧坊、

良然

童名千今、正応元年十月十四日、於高野出家、同廿日南都受戒、

国忠

母同国藤、童名藤今、正安元年十二月十一日叙從五位下宣下、宣棟

国

有棟

母平成行女、童名磨尼今、正和二年六月廿九日叙從五位下、宣下職事民部大輔藤顯親、曆応二年六月

女院藏人、不住、有繼

從五下、修理亮、飛騨守

七日任飛騨守、年三十七、上卿西園寺大納言、

有宣

主殿助、不住、

女

母中務丞家女房

真直女、箏、出家

女

早世

棟平

母同、嘉曆四五四叙從五位下、正中二年十二月廿一日任図書助、一切經会舎

屋功、嘉曆三十二四叙外從五下、同功、

良清

童名米持今、元亨四年二月廿一日於高野出家

養子

棟冬

正和四年九月七日任上野介、金物

祐紹

太子僧、当杜西僧坊、宮内卿僧都、

功、同日叙從五位下、元応二年六

月十八日出家、本行、

女

母同国藤、国兼妻

女

母同国有、国任妻

女

同母、国勝妻

有保

式部少丞、從五下、土佐權守、

出家、法名宗保

有広

修理亮、從五下、飛騨守、

豊有

笛、箏、政千弟子

応永卅三十一廿二日任右京

亮、土佐守、從五下、相模

守、

国範

年月日任文章生、年月日任越前掾、安貞二年十月十七日補權神主、為国平子補之、同三年十一月十六日請官符、嘉禎二年五月六日叙從五位下、延應元年十一月六日任木工權助、文永六年八月解官權神主職、同十二年正月十六日卒、

国行

母彈正大弼保実女、建長四年正月五日叙從五位下、入内、文永七年正月廿二日於大安寺出家、年三十、法名想仏、弘安七年卒、

国定

弘安二年比、号国範子、神主職望申也、

(欄外注記、国範に関わるか)

正嘉元年被解官、以国助可被補之由、惣官国平被上訴状、訴陳、此間依破損古本不見、經十三ヶ年文永八年被解官、以国助被補之、

山

覚源

為当氏津守寺頭勤仕之、

国房

童名、三才、文永五年正月八日棟国首服、次同首服、加冠、理髮国頼、脂燭師良、陪膳氏直、役送惟氏、弘安十年二月八日一切經会始出仕、年三十五、

国村 改国茂

経

母中納言親信女、弘安二年比神主職所望之、

七月申状被下也、弘安七年九月五日卒、

女

国敦妻、母同良照、

国満

母氏人行忠女、弘長元年月日叙從五位下、文永元年正月十八日卒、年四十、号五月大夫、

国房

弘安七年十二月十二日任掃部助、木工寮功、弘安十年正月五日叙外從五位下、同十一年三月八日叙從

国景

正応六年六月廿四日任兵部丞、正安元年十二月十二日叙從五位下、

女

家隆二品子侍從隆祐朝臣室、

女

定時三品子中務少輔貞時室、

女

琵琶
定遠弟子、母同国村、

国景

正応二年十一月九日相嘗御祭、

当宮始出仕、七歳、永仁五年正

月廿八日元服、十五、加冠惣官、

理髮、脂燭国頼安房守、国道新

藏人、陪膳五品康秀、役送師泰、

袴長村、牽行景方、馬籠長村、

師泰請取、袴、

国能

文保二年十二月廿七日任掃部助、宣下、

元亨四年月日、出家、

道景

元徳二年五月十八日任掃部助、宣下、

信濃守、從五下、

良朝

女

妻

氏人量貴

国継

母同経国、建暦元年十二月八日叙

從五位下、年月日補主殿所長官、

弘長二年月日依重病出家、法名蓮

継、文永六年三月廿八日卒、鷹飼

之、号新大夫、津守寺修正頭、根

本饗膳也、自仁治二年成酒肴頭人

国継男、

国親

母菅野惟村女、号千歳大夫、年月日叙從五位下、外記本

無之、永仁七年三月廿九日出家、年七十八、法名蓮道、

嘉元二年五月十二日卒、八十三

女

親長妻、

親藤母親

跡相統也、

長範

建長二年正月八日叙從五位下、外記本無之、正応二年四

月四日卒、五十八、号光王大夫、鷹飼也、

長範

童名光王、嘉禎三年正月廿二日元服、加冠權官國範、理髮國茂、脂燭兼行・師良、國言元服次

國連

永仁元年十二月廿六日補東二条院藏人、号福壽藏人、年月日出家覺妙、

國仲

正和五年四月十五日任掃部助、土器功、

道連

嘉曆三年九月十四日任大炊助、一切經会舎屋功、

宣長

弘長三年正月六日叙從五位下、外記本無之、年月日出家、正和四年十二月日卒、号鶴大夫、

宣康

正和三年十一月廿日叙從五位下、金物功、号九郎大夫、

宣夏

元德二年五月十八日任左京權亮、宣下、從五位下、

山臥

行盛

朝盛法印弟子、鷹合堂別当、法興寺別当、律僧、

宣教

改業繼

宣繼

文永八年四月七日任伊勢權頭、正安二年四月日卒、

号閑王大夫

國世

文永七年正月五日叙從五位下、外記本無之、弘安五年五月十三日卒、去月十八日為秀綱家督、

本律僧

道義

仲道

元德三年二月五日任大膳亮、

文永三年九月廿六日任木工
權助、同十一年正月五日叙
外從五位下、建治元年十一
月廿五日流罪、安芸國官人
職秀依金峯山訴也、正應五
年二月廿六日原免之、同六
年七月廿日叙從五位下、宣
下賜、去弘安三年正月五日
位記、永仁二年十一月四日
叙從五位上、同十二月廿日
任豐後守、永仁七年三月十
六日卒、年五十七、

國親為子

盛繼

永仁二年十二月廿三日任
木工助、正和元年八月廿一
日出家、年六十二、法名西
念、同四年九月十八日卒、
六十五、

女

僧禪基妻、中務少輔家時子

仲繼

延應六年七月七日任修理亮
乾元二年閏四月日叙從五位
下由申之、但不審、

仲基

從五下、出雲守、

定繼

年月日補遊義門院判官代、
正和四年六月廿四日叙從五
位下、金物功、同日任豐後
守、同功、

改名基定
長継

長繼

元應二十二十日任
木工權助、嘉曆四
五四叙五位下、

女

国連妻

夏繼

判官代

愛福

從五位下

親長

乾元二年七月廿三日任掃部
助、內侍所御神樂功、正和
三年正月五日叙外從五位下、
同十一月十九日任豐前守、
正和四年正月六日叙從五位
下、同九月七日任常陸介、
金物功、

親藤

母国藤女、正和二年十二月八日補永嘉門院藏人、左大弁三位雅任奉、正中三年二月廿五日叙從五位下宣下、一切經会功、

仲常

從五位下

仲定

從五下、兵部丞、
不住、

義俊

義俊

木工助、不住、

仲久

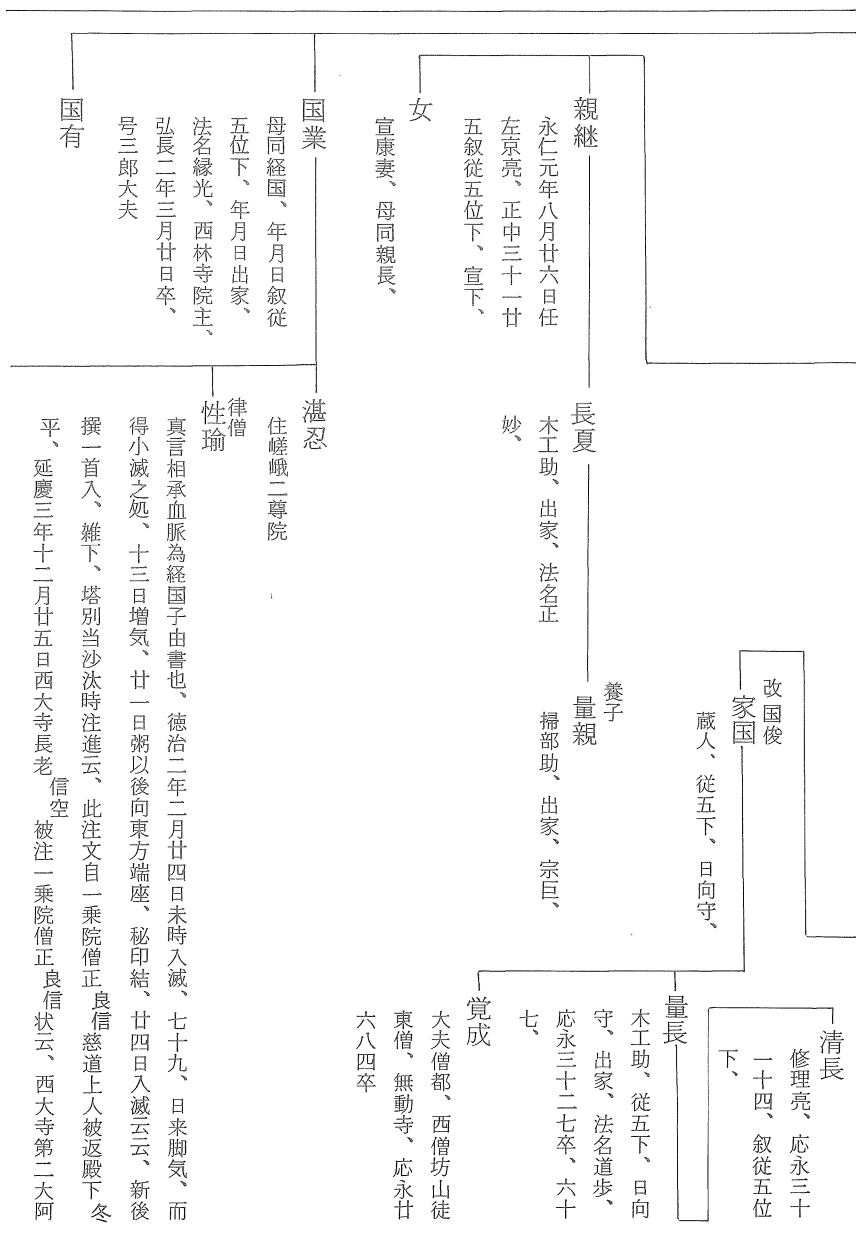
從五位下、
出雲守、

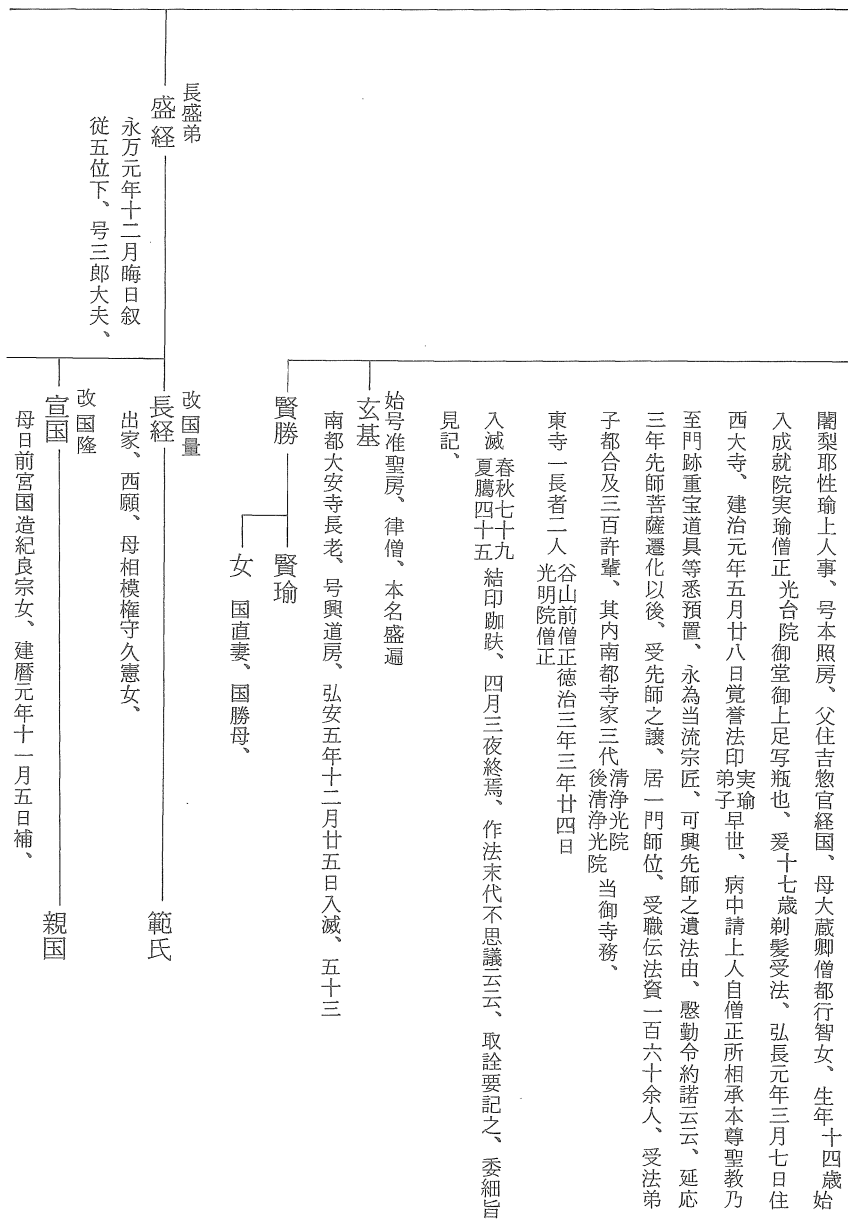
豐仲

女院藏人

仲親

部助、
應永卅三十一任掃





殷富門院藏人、建長四年月日卒、七十五、

津守寺修正行春根本侍氏人立之、而文永年中

国頼立之、其後惣官一門氏人立之、

国茂

母上西門院御半物

玉江前江口遊女、

建曆元年八月八日

叙從五位下、年月

日出家、仰願、建

長四年六月十八日

卒、七十六、自宝

治二年、神宮寺修

正壇供餅、百二十

枚、立之、以私領

為料田寄進之、于

今無退転、樂所別

当、号淡路大夫、

掃部所長官、

国能

国氏

寛喜三年正月日叙

從五位下、外記本

無之云云、正元二

年月日任肥後守、

弘安七年十一月廿

五日卒、七十三、

神楽、琵琶、箏、

和琴、

国頼

建長六年正月七日

叙從五位下、外記

本無之云云、弘長

二年八月十二日任

大膳亮、正応二年

十一月五日任安房

守、永仁二年十一

月四日叙從五位上、

嘉元二年十一月廿

五日出家、七十四、

法名阿心、同三年

一月廿四日卒、七

十五歳、臨終正念

端坐合掌、念仏數

返申之、閉眼云云、

箏、和琴、

国雄

永仁元年八月三日

補五条院藏人、説

藤奉行、同三年八

月五日叙從五位下、

正和二年四月十日

任安房守、荒垣修

造功、文保三年六

月三日未時卒、年

五十五

国敦

母左馬亮平康氏女

永仁二年三月十日

任大膳亮、延慶四

年正月五日叙外從

五位下、応長二年

正月五日叙從五位

上

二男
国躬

正和二年十二月三

日、補永福門院藏

人、前藤宰相雅俊

卿奉、

三男
国村

文保二十二月廿七

為盛

出家、想心、号尾

為氏
出家、行願、

張冠者、

寬盛

二僧、東僧坊、号

弁阿闍梨、

盛能

順昌

氏平

建長六年十二月十九日任掃部助、

弘長四年正月五日叙從五位下、文

永七年八月十日出家、蓮淨、年月

日卒、

養子

親氏

永仁七年三月廿九日出家、蓮覺、

八齊戒、正和三年五月日於西天寺

入滅、

茂平

文永八年四月十四

日任主殿助、建治

四年正月六日叙外

從五位下、弘安三

年正月五日叙從五

位下入内、正安三

年六月廿一日出家、

不審

律僧

号善信坊

国賢

年月日任縫殿助、

出家、覺惠、元德

二年月日卒、

経賢

元德元年十月日任

左京亮、同三年二

月廿七日年二十三

卒、

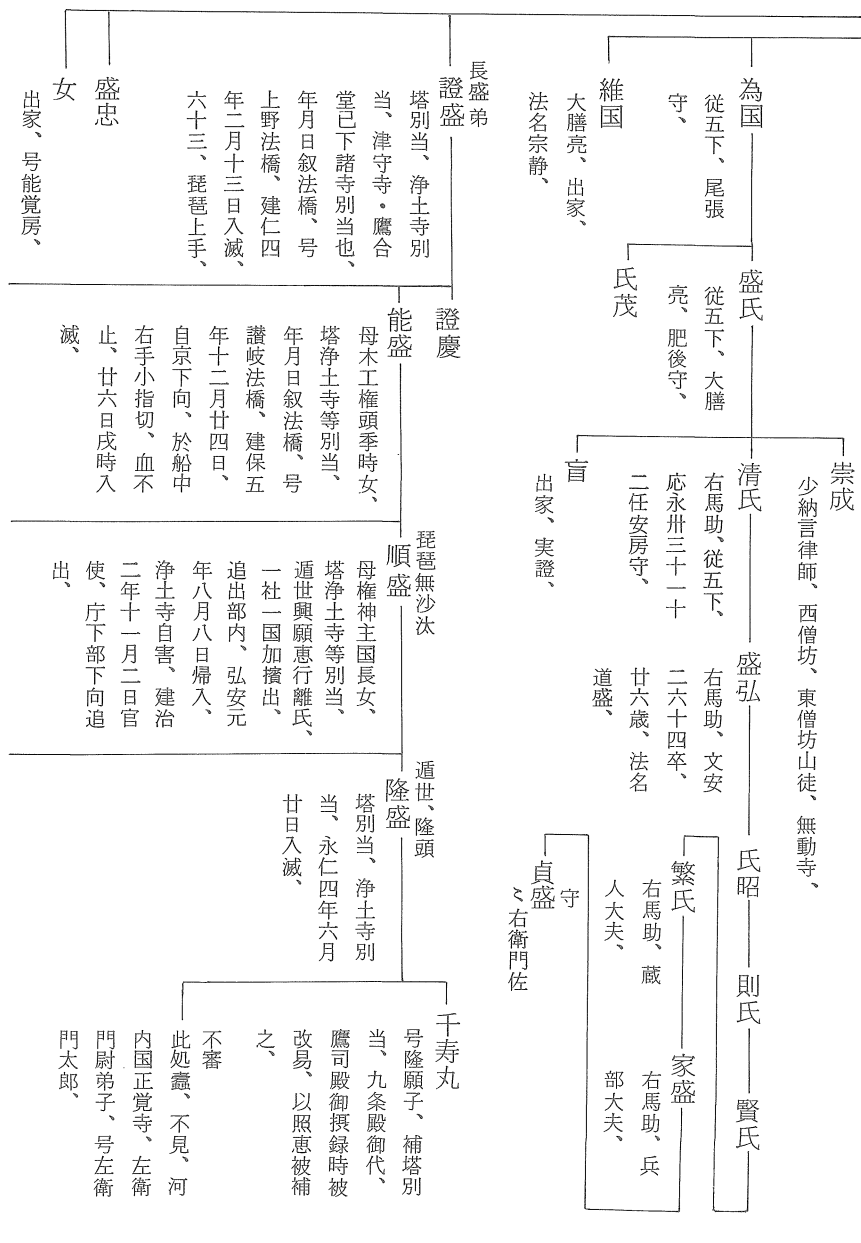
女

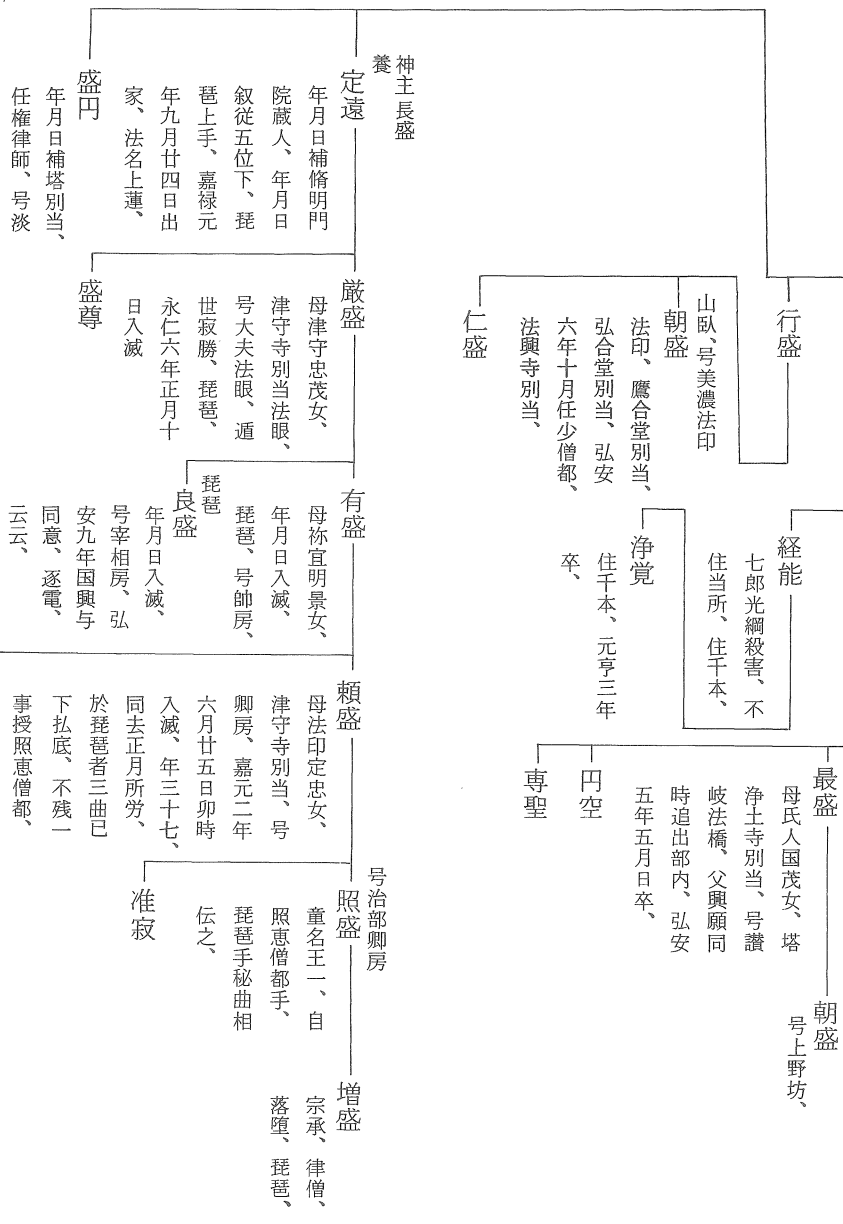
国政妻

女

国忠妻、母同国敦、

日任木工助宣下、
元德三十四卒、





路律師、弘長三年五月十七日入減、七十二、

女
賴盛子息男女内、隨器量可授由契約、子息嫡子王一九七歳也、

国夏母

五十四

国清

応永十四年七月五日補神主、歳十三、從五位下、同日左近將監叙留、応永十五年七月解職、同十八年五月晦日還補神主、歳十七、從五位上民部少輔、同廿一年正月廿日卒、歳二十、童名加護王、

五十五

国豊

(貼紙)

「応永六己卯年誕生、是者左ニ見ユル正長元年ヨリ三十年之間ダ、年代記ヲ逆サマニクリテ考ヘ置ク者也、勘例書認出ストキ、中置ノ年数ヲ究ムルニ入候故ヘナリ、」

母南方堀河殿女、童形在

五十六

国博

母白河伊予法眼女、正長元年六月廿日為權神主、同年十月廿一日叙從五位下、同年十一月十五日転神主、永享五年六月十七日任治部少輔、同十二年十二月廿三日叙從四位上、文安元年七月七日卒、二十四歳、時詠曰、七夕は

五十七

国昭

母備後官女、文安元年閏六月廿日叙從五位下、同年七月十八日為神主、文安四年十一月廿四日叙從五位上、任中務少輔、文明十五年八月三日任左京大夫、長享二年落髮、道号夢翁宗州、四十八歳、延徳二年八月六日卒、五十歳、号

五十八

国則

母佐々木小原女、文明五年十二月十八日為權神主、時七歳、長享元年十月廿四日任摂津守、延徳三年八月十六日叙從五位上、同廿四日任中務大輔、明応二年十二月十五日為神主、同六年十一月十六日叙正五位下、同七年三月四日任大膳大夫、同八年

華從寺、後為神主、応永廿年十一月廿八日叙從五位下、同十二月廿五日任撰津守、同廿三年正月晦日叙從五位上、同年六月十九日任中務大輔、同廿五年四月七叙正五位下、同廿六年五月二日叙從四位下、同廿七年二月十一日任左京大夫、同卅年九月廿九日叙從四位上、正長元年十月五日叙正四位下、同月日卒、歳三十、号輪藏院、新統古今三首入、雜上・中・中

女子

警中

梵策
南禪寺僧、侍者、慈恩寺住持、三十二出逝、

後の秋をやちきるらん、かきりある身ハけふの夕くれ
号宝幢院、新統古今一
首入、

女子

女子
良恵大姉、西林院長老、

南栄
橘首座、慈恩寺住持、

童子
金、六歳逝、

女子
西林院西坊、

退就院

女子
西林院長老
二月十七日叙從四位下、文龜二年四月五日叙從四位上、享祿四年正月六日卒、紹松居士、号春林院、

女子
西林院西坊

宝樹院

女子

国恒
長享二年十二月廿四日為權神主、一歳、延徳二年閏八月廿二日卒、三歳、

五十九

国賢
文龜元年三月十七日叙正六位上、于時七歳、任左近將監、同年六月十三日權神主、永正二年二月八日為神主、同五年十二月十八日叙從五位下、同九年三月十八日叙正五位下、同十三年十一月廿三日叙從四位下、大永四年五月廿六日任左京大夫、同五年九月七日叙從四位上、天文六年十二月十七日卒、号瑞松院、

六十

国順

享祿四年六月十七日為權神主、叙從五位下、任左近將監、天文七年二月晦日為神主、任中務大輔、同九年十二月五日叙從四位下、十三歲、同十七年八月二日叙從四位上、同八月廿四日叙從三位、同七八日任刑部卿、天文二十年五月十七日卒、二十四歲、号雲光院、

六十一

国繁

兄国順無子津守氏將絶、當於斯時卜部凱觀、朝廷以兼右朝臣次男相統、既被勅裁訖、兼右朝臣次男下向渡部、社中一同不甘心、因大神御鎮座以來無如此例也、其子細申上、仍所被棄破先勅也、於是天文廿年六月十九日勅裁曰、所詮早為故国順親類中、任社家之例可致沙汰之由、天氣所仰候也云云、因之国繁雖為慈恩寺方丈、今還俗統家督、天文二十年九月廿八日叙從五位下、任撰津守、天正三年十一月十七日叙從四位下、任修理大夫、同十一年七月廿八日卒、五十六、号冷峯院、

六十一

国崇

童名松今丸、永祿五年四月十一日為惣官、七歲、天正三年十一月十七日叙從四位下、任治部大輔、同十九年五月廿五日卒、三十六歲、号瑞雲院

女

日野殿室

六十三

国家


母久我右大將通興卿女、孝心院、童名今麿、天正十一年十二月廿二日為權神主、叙從五位下、任左近將監、同月晦日神拜、七歲、文祿元年六月四日為神主、十六歲、叙從五位上、任和泉守、慶長五年七月十日卒、二十四歲、号栖松院、

女

佐々木右近室

六十四

国通

母生駒讚岐守一正女、童名今丸、慶長六年十一月廿八日參宮、七歲、同九年八月五日為權神主、叙從五位下任左近衛將監、元和二辰十月三日赴江戸、同廿八日謁見將軍、公、十一月朔日賜御暇、同廿一日歸于住吉、年廿二歲、元和六年十二月廿日叙從五位上、任左京大夫、元和八

松首座
慈恩寺

女

冷泉殿室

女
鶴、大相国家康公妾

女

万、葛岡喜内室

通宣

藤井式部大輔

貞国

藤井主膳正

貞辰

菊岡兵庫頭

年戌十月廿九日卒、二十八歳、
号慶徳院、

六十五

国貞

母桑山左衛門佐女、祥福院、童名今丸、元和六年十二月廿二日為權神主、叙從五位下、任左近衛將監、七歳、同年閏十二月参宮、同九年十一月四日為神主、十歳、寛永九申九十五赴江戸、十朔二謁見將軍家光公、同五日賜御暇、同廿日帰于住吉、年十九歳、正保元年十月廿八日卒、三十一歳、号興雲院、

女

早世

女

三宅玄蕃頭陳忠室、国治・中晴等母、

今丸

早世、三歳、母池田出羽守女高樹院、

六十六 本名藤貞

国治

母同、寛永十六己卯年九月二十三日卯刻誕生、実陳忠子、正保元年三月十八日国貞以猶子為養子、童名、龜丸、正保二年十一月七日為神主、叙從五位下、任左近衛將監、年七歳、同三年三月廿二日神拜、慶安二年十二月九日元服、承応二年十二月廿三日叙從五位上、寛文四年六月朔日叙正五位下、同六年十二月二日叙從四位下、時年廿八歳、任中務大輔、上卿勸修寺中納言、職事藏人權右少弁藤原淳房、神拜

正保三丙戌年三月廿三日已刻、天氣快然、役人

加持陰陽師 吉祥院承伝 貞守 親昵役

女 清

母桂昌院、奏覽本無之、自幼少奉仕東福門院、延宝八年十一月七日早世、年廿五歳、号常證院、

今丸

早世、母同

女

早世、母同

六十七

国教

母同、童名千永今丸、寛文元年八月八日誕生、同七年閏二月十七日為權神主、時七歳、叙從五位下任大学助、上卿坊城大納言、職事藏人頭左中弁藤原光維、同年三月晦日元服、同年四月三日神拜、天氣快然、神拜役人

春首座

慈恩寺住職

今丸

早世、母伏原二位清原宣幸女、清簾院、

六十八

国該

童名八千丸、母同、元禄六四年五月廿八日誕生卯刻、上卿東園大納言、藏人頭左近衛中将藤原基長奉、同十二年五月十二日宣旨、為權神主、叙從五位下七歳、任大膳權亮、同年六月五日元服、同十一日神拜、

元服役人

加冠 惣官国教公

理髮 治易

円座 豊村

冠 忠敬

六十九 輝教

童名八百丸、母同、元禄八乙亥年十一月廿三日寅刻誕生、正徳元年十二月廿七日任權神主、同叙從五位下上総介、年十七、同二年四月晦、神拜、

役人

陰陽師 義泰

親昵 治英

幔門 治易

沓 安村

陪膳 □

役送 安村

祝言師 明啓

楔師 明氏

上郷坊城大納言享保二年十二月八日宣旨、從五位下津守国輝、宜叙從五位上、藏人權右中弁藤原敬孝奉、上郷坊城大納言、享保二年十二月八日宣旨、

十四歳時始謁内府源通村、
学和歌時、寄道祝歌曰、
しるへせよ代々に久しき跡
とめてけふ入初る敷嶋の道
通村称之即与報歌曰、
代々の跡つきてそならへし
きしまの道守るてふ神につ
かへて
住吉社二十年一度造替遷宮
之式年也、天下兵革後、式
年相違、康正以来無造宮沙
汰、大坂之役神宮寺罹兵火、
而社頭呈神異巍然独存、其
後及大破社家聞事于江戸至、
国治社務之時、十七歳、征
夷大將軍源朝臣家綱公御再
興也、承応甲午年十一月十
八日卯刻行山口祭、同廿五
日辰刻木造始明曆元乙未年
三月十二日戌刻仮遷宮、大
坂之役正印殿焼失、此時亦
御再興也、六月二日卯刻柱

上卿勸修寺大納言、職事
藏人頭左近衛權中將藤原
基量、天和壬戌年七月
十六日參社、為明日江戸
発駕也、八月十五日謁見將
軍綱吉公、同廿三日賜御
暇、九月十四日帰于住吉、
同三癸亥年六月一日住吉
杜御法案、和歌五十首、
今上自 新院古今和歌
集御伝受之御祈也、召国
教御奉納、同日毎年正五
九月御祈禱被仰出、同年
六月十七日奉勅奏覽住吉
社年中行事并歴代御寄進
例、同年奏覽難波梅住吉
和須礼草、依勅也、貞享
四丁卯年十月五日叙正五
位下、時二十七歳、上卿
万里小路大納言、職事藏
人頭左近衛權中將源基勝、
元禄四辛未年四月七日叙
從四位下、時三十一歳、

事藏人光房、同七年十二
月十一日叙中務少輔、正
徳元年十二月廿三日任神
主、上卿徳大寺大納言、
職事基香、十九歳、
後、
上卿坊城大納言、享保元
年八月廿三日宣旨、正五
位下津守国該、宜叙從四
位下、藏人權右中弁兼左
衛門權佐藤原敬孝奉、同
上卿坊城大納言、享保元
年八月廿三日宣旨、中務
少輔津守国該宿称、宜任
右京權大夫藏人權右中弁
兼左衛門權佐藤原敬孝奉、
前、
正徳三癸巳年九月廿三日
首途、同月晦日江戸発駕、
十月十四日着府、同月廿
八日見將軍家継公、十
一月五日賜御暇、同月六
日帰駕、同月廿三日帰于

務四十七年、去享保十八
年二月廿八日拜謁將軍吉
宗公、同三月七日賜御暇、
女子
每、早世、錦小路図書頭
尚秀朝臣室、
千丸
早世
女子
早世
基該
母伏原二位清原宣通女、
松来院、
女子
早世
女子
早世
朋音
南都西大寺之寺僧、宝曆

立、同七日辰刻棟上、

造宮奉行

石河土佐守源利政

今井彦右衛門源兼統

末吉助八郎藤原長秀

大工

中井正朝

。寛文四年叙正五位下国治

廿六歳、上卿東園中納言、

職事權右少弁藤原経尚、寛

文四年六月朔日住吉杜御法

楽和歌五十首召国治御奉納、

寛文十一年辛亥年八月晦日赴

江戸、十月朔日謁見將軍家

綱公、同五日賜御暇、同廿

三日帰于住吉、国治年三十

二歳、寛文十二年八月十五

日 後水尾院有命御覽津守

系図、勸修寺中納言経慶奉、

十七日奉 命奏覽古系図、

九月還古系図、命曰、此系

図自神代世系相統記事甚詳、

如此家譜公卿之家尚希、宜

任左京大夫、上卿源大納

言、職事藏人左少弁藤原

尹隆、元禄十二己卯年五

月十二日叙從四位上、時

三十九歳、上卿東園大納

言、職事藏人頭左近衛權

中将藤原基良、上卿右大

将宝永元年十月廿五日宣

旨、從四位上津守国教宿

祢、宣令叙正四位下、藏人

頭右近衛權中将藤原兼親

奉、当杜御造宮、宝永五

戊子年、

都宮監 秋元但馬守喬知

加 宮 青山播磨守幸督

副 監 桑山甲斐守一慶

廩吏久下作左右衛門金春

百原新左衛門正氏

宮 匠 山村与助直純

一、山口祭子五月十五日

卯刻反橋前、於松原行

之、

一、木造始、同月十九日

住吉、上卿万里小路中納

言、享保六年十二月廿四

日宣旨、從四位下津守国

該宿祢、宜叙從四位上、

藏人頭左中弁藤原高顯奉、

享保十一年五月神主職辞

退、元文三戌年六月十

四日卒、歳四十六、号清

涼院、

女子

八重、早世、母伏原二位

清原宣幸女

朋元

南都西大寺之寺僧

八十丸

母同八重、早世

女子

左那、早世、九鬼一学室、

左丸

早世

九年八月廿三日卒、

女子

円、錦小路図書頭尚秀朝

臣室、

長丸

早世

女子

早世

新写一本并国豊以下十有余
世録履歴等繕写之、備御覽、
於是修国豊以下事蹟繕写、
一部十月廿三日奏覽、後水
尾院叙感、被進 今上、乃
納官庫、

。同十二年八月十九日叙從
四位上、歳三十四、上卿、
職事、延宝五丁巳年四月十
三日卒、歳三十九、号高顯
院、

女

市、早世、母同、

女

竹、母同、寛文元年八月十
五日卒、二十三、号桂昌院、

卯刻、

一、神殿於広前行之、

一、仮殿地引同月廿三日

辰刻、

一、同御柱立六月四日辰

之刻、

一、同上棟同月七日辰之

刻、

一、本社四所外遷宮六月

廿三日戌刻右仮殿神樂

舍ヲ用、

一、同地引八月五日辰之

刻、

一、同御柱立同月廿一日

辰之刻、

一、反橋渡、初丑ノ四月

廿一日卯刻、

一、本社上棟同五月朔日

卯刻、右当杜之大工勤

之、

一、同正遷宮同日丑ノ刻、

同二日奉備神供催舞樂、

使天王寺伶人二十二人

八十松

早世

紀輝

母冷泉中納言藤原為經女、童名八百丸、享保元丙申年八
月四日誕生、享保十五年庚戌四月座摩社為神職養子、同
五月十七日卒、号徳昌院、十六歳、

七十

国条

母同、童名八千丸、実国該子、母伏原二位清原宣通女、
享保二丁酉年十一月五日戌刻誕生、上卿勸修寺中納言、享
保十一年五月廿八日宣旨、津守国条宜叙從五位下、為住
吉杜權神主、任上総介、藏人頭右大弁藤原俊将奉、上卿
坊城中納言、享保十七年四月十一日宣旨、從五位下津守
国条、宜叙從五位上、藏人右中弁藤原秀定奉、上卿坊城
中納言、享保十七年四月十一日宣旨、上総介津守国条、
宣任中務少輔、藏人右中弁藤原秀定奉、上卿左衛門督、
元文四年十一月廿九日、從五位上津守国条、宜叙正五位
下、藏人右中弁藤原頭道奉、上卿勸修寺中納言、延享三年
十二月廿四日宣旨、正五位下津守国条、宜叙從四位下、
藏人右中弁藤原俊逸奉、上卿勸修寺大納言、宝曆五年十

勤之、神輿假殿幸本社之時、奏音樂、社中之伶人亦役之、但他遷宮時之音樂、社中伶人奏之、

同年市恵比須社奉勸請、正徳元年十二月神主職辭退、上卿按察大納言、享保三年十二月十三日宣旨、正四位下津守国教宿祢宜叙從三位、藏人右中弁藤原敬孝、享保十五年庚戌十一月三日卒、歲七十、社務四十五年、号凌雲院、

隆
九鬼主計

月十四日宣旨、從四位下津守国条、宜叙從四位上、藏人左少弁藤原敬明奉、上卿坊城中納言、宝曆七年六月廿九日宣旨、住吉社權神主津守国条宿祢、宜為同社神主、藏人權右中弁藤原敬明奉、去享保十一年九月三日元

服、已刻、

加冠 惣官国輝

理髮 治易

円座 安村

冠 忠澄

泔坏 惟識

首服具 儀

馬 惟識

同請取 家司 教東

笛 和行

同請取 治易

同年十二月十五日神拝参

宮、已刻、

親呢 治易

七十一

国頼

童名八千丸、延享三丙寅年三月十日誕生、

上卿坊城中納言宝曆七年六月廿九日宣旨、津守国

頼、宜叙從五位下為住吉社權神主、任上総介、藏

人權右中弁藤原敬明奉、宝曆八戌寅年八月廿二日

神拝、已刻参宮、十三歳、

親呢役 該道

幔門役 輝文

省役 芳村

陪膳 書

役送 輝祖

祝言師 正祢宜明言

楔師 權祢宜明德

幔門	教節	沓役	安村	陪膳	惟精	役送	安村	祝言師	正祢宜明英	楔師	權祢宜明堯	奉行	教節	教平	上卿鷺尾大納言、宝曆十年十一月十七日宣旨、從四位上津守国条宿祢	宜叙正四位下、藏人頭	右大弁藤原韶房奉、	(行)	宝曆十年十一月十七日叙正四位下、宝曆十三年八月十二日叙從三位、宝曆十三癸未年八月十四日卒ス、社務三十八年、右三位勅許ハ国条病氣危急願ニ依而勅許也、後例ニハ殘間敷旨、被仰出、別紙此書付有之、
----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-------	----	-------	----	----	----	---------------------------------	------------	-----------	-----	--

加持陰陽師	智現	奉行	輝文	忠澄	宝曆八戌寅年八月十一日已刻元服、	加冠	惣官国条	理髮	該道	円座	芳村	冠	忠澄	首服具	書	汨坏	忠那	幣	忠澄	馬	釵	素行	請取	家司	輝祖	素行	請取	該道	宝曆十二壬午年五月十五日叙從五位上、	宝曆十三癸未年八月十三日補神主、明和四丁亥年十月六日叙正五位下、	明和八辛卯年二月廿二
-------	----	----	----	----	------------------	----	------	----	----	----	----	---	----	-----	---	----	----	---	----	---	---	----	----	----	----	----	----	----	--------------------	----------------------------------	------------

七十二

国礼

国保

童名、母、冷泉入道前大納言宗家卿猶子、実ハ鷺尾故大納言隆熙卿末男、実母ハ国輝女、

安永三甲午年十月五日叙從五位下為權神主任常陸介、

国頼朝臣ノ男、母ハ同上、実ハ錦小路正三位修理大夫丹波頼尚ノ二男、実母(日脱)

ハ野從一位資枝卿ハ国礼ノ実祖母ハ津守国該朝臣ノ女也、血統由緒ヲ以テ安永六年為国頼ノ実子、津守家相統、于時五歳、安永二年九月廿二日誕生、弘化三年八月十四日卒、

和泉俊輝

享保十六年亥年五月十
七日卒ス、

女子

悦、母冷泉大納言藤原
為経卿女、享保六辛丑
年四月六日誕生、

女子

郁、母同、享保七壬寅
年五月十四日誕生、鷲
尾新大納言為熙為室、
宝曆九己卯年八月廿九
日卒、

真珠院

岩丸

早世、母冷泉大納言藤
原為経卿女、

女子

富、石井家為養女、

日叙従四位下、安永四
乙未年正月十九日叙従
四位上、

七十三代
(以下欠)

女子

鶴、延享二乙丑年二月廿

一日誕生、冷泉入道前大

納言宗家卿之猶子ト成り、

神主国頼為室、

龜丸

早世